

黙示録12章13－18節 「残りの民の逃れ場」

1A 選びの民を追いかける竜 13－14

1B 男の子を産んだ女 13

2B 荒野にある自分の場所 14

2A 川を飲み干す口 15－16

1B 諸国の軍隊 15

2B 地形の助け 16

3A 女の子孫に対する戦い 17－18

1B イエスを証しする者たち 17

2B 海辺の砂の上に立つ竜 18

本文

黙示録 12 章を開いてください。私たちの今晚の学びは、12 章 13 節からです。13 節から 18 節を見ていきます。(本文を読む)私たちは 12 章において、イエス・キリストを産み出したイスラエルの民が、竜である悪魔から滅ぼされそうになるところを読みます。しかし、13 節から今、読んだように、イスラエルは逃れの場において養われ、間一髪、滅ぼされずに守られます。

前々回、イスラエルである女が、イエス様が天に昇られた後に起こることとして、6 節、荒野に逃げるところを読みました。「12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。」このことを詳しく、13 節以降で、主は明らかにされます。

私たちはしばしば、旧約聖書にはイスラエルの歴史が書かれていて、新約聖書は教会の歴史であるという見方をします。イスラエルの民の歴史は旧約時代で終わり、イエス・キリストが来た今は、イスラエルは神のご計画の中において意味をなさないとします。果たして、そうでしょうか？イスラエルは、新しい契約の中においても、神に退けられておられないことを教えています。そもそも、新しい契約は、だれと結ばれたかを思い出すべきです。「エレ 31:31 見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。」イスラエルの家とユダの家と結ばれるのです。イエス様が、最後の晩餐で、弟子たちとぶどう酒を飲まれる時に、ご自身の流される血が新しい契約のしるしだと話されました。こうして、イスラエルの民と結ばれたのが新しい契約ですが、しかし、その契約にキリストにあって、神から遠く離れていた異邦人が近づけられ、その恵みにあずかっているというのが、新約聖書で啓示されている奥義です。

ですから、終わりの日にイスラエルのために備えられている神の救いは、今も残っているという

ことです。ローマ 11 章は、イスラエルは決して見捨てられないというところから始めます。「11:1 それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。」そして、イエス様が来られて、ユダヤ人が大方、この方を拒みましたが、それは倒れるためであったのか？と尋ねたら、決してそんなことはないと 11 節で話しています。そもそも、神がご自分の民としてイスラエルを選ばれたその選びによって、私たち異邦人にも憐れみをかけているのです。もし、イスラエルの選びが、キリストが来られて終わってしまうのであれば、異邦人に対する神の選びも、不確かなものとなってしまいます。

それで、パウロははっきりと、イスラエルが救われることを教えています。「11:25-26 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。」たった今、イスラエルという国が地球に存在し、ユダヤ人が世界中から集められているということ自体が、神がご自分の大いなる救いを成し遂げようとしておられる、確かな証しです。

1A 選びの民を追いかける竜 13-14

そしてイスラエルの救いは、最後に苦難を経てのものであることを、私たちは聖書の預言を見ると知ることになります。イスラエルは、苦難の歴史を経てきました。ローマによってエルサレムが紀元 70 年に破壊され、それから世界離散の民となりました。そして、世界各地で差別、迫害、虐殺の辛酸を舐め、近代にはホロコーストを経験したのです。そして、終わりの日、それを上回る大きな苦難が来ます。しかし、主はそこから彼らを救い出され、贖いのご計画が実現するのです。その終わりの日における苦難を、イスラエルの姿を荒野に逃げる女の中で見ることができます。

1B 男の子を産んだ女 13

¹³ 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。

私たちは前回、天において、竜とその手下が、ミカエルとその使いと戦ったことを読みました。その戦いは、ミカエルとその使いが優勢となり、竜、つまり悪魔とその手下は天において自分たちのいるべき場所がなくなりました。そして、地に投げ落とされたのです。そして、12 節には「悪魔が自分の時が近いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」とあります。最後のあがきを行っていくのです。

その始めが、「男の子を産んだ女を追いかけた」ということであります。イエス様が、オリーブ山にて、弟子たちに世の終わりのしるしを教えられましたが、それが、「荒らす忌まわしいもの」が聖なる所に立っているのを見たら」というものです(マタイ 24:15)。そして、ユダヤにいる人々は、一目散に逃げなさいとイエス様は言われます。それは、「24:12 世の始まりから今に至るまでなかつ

たような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。」ということでもあります。悪魔が、荒らす忌まわしいもの、反キリストによって、キリストを産んだ女、すなわちイスラエルを追いかけるようにさせるのです。

2B 荒野にある自分の場所 14

¹⁴ しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

女が荒野に向かって逃げていく時に、大きな鷲の翼が与えられたとあります。これは、イスラエルの民がエジプトから救い出されて、荒野の旅をして、シナイ山の麓にまで神が無事に導かれた時のことを思い起こすものです。「出 19:4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。』同じようにして、今、イスラエルの残りの民が、荒野に逃げていく時に、主が彼らを守ってくださるということです。そして、無事に、彼らのために備えておられる場所に連れて行かれる、ということです。

前回、ここの「荒野」はどこを指すのかを、少しお話ししました。「ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。」と、イエス様は命じておられます（マタ 24:16）。けれども、ユダヤ地方はすでに山地なのです。山地にいる人々に、山に逃



shutterstock.com · 2141490601

げなさいと言われているので、どこであるか、おおよそ察知がつかます。そこから見える山々は、死海のあるアラバを越えたところ、モアブやエドムです。死海の南から紅海までに広がっている山地をセラと言います。「岩」という意味です（イザヤ 16:1 参照）。

そのセラの中で、旧約聖書の預言には「ボツラ」という地名が出てきます。かつてのエドムの首都でした。ミカ書 2 章 12 節にこうあります。「ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中(=ボツラ)の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起る。」ここの「囲いの中」は「ボツラ」と書いてあります。そこは今、ヨルダン南部にあり、世界遺産にもなっている「ペトラ」ではないかと言われています。新約時代は、ナバタイ王国の首都でありました。そこはちょうど、山々に取り囲

まれている盆地のように、岩山に取り囲まれた溪谷の一部となっており、一つの大きな避難所のようになっています。



そこに、「一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われる」とあります。覚えていますが、6節では、「千二百六十日の間」とありました。一年が 360 日という数え方なので、ちょうど三年半です。一時、二時、半時も、時は一年なので三年半です。ダニエルの七十週の預言の最後の週、第七十週目の後半部分の三年半です。その時に、かつてないほど、これからのないほどの大患難が、ユダヤ人を襲いますが、それでもここで残された者たちが養われる、ということです。

「養われる」とありますが、イザヤ 33 章 16 節には、当時の人々が高い岩地というものをどのように受け止めていたかを描いています。「このような人は高い所に住み、その砦は岩場の上の要害である。彼のパンは備えられ、彼の水は確保される。」強固な砦であります。かつて、マサダの要塞がありましたが、死海のほとりにある菱形になっている台地です。そこは砦でもあり、ヘロデ大王の宮殿でありました。エルサレムをローマが包囲して破壊しましたが、その残党がここマサダに立てこもったのです。上にはわずかな降水をも貯める高度な貯水設備もあり、中では菜園もありました。ですから、三年間、包囲されていたのにもかかわらず、飢え死にすることもなく、陥落して、彼らが自決した後にも食糧が残っていたと言われています。

それと同じように、主がボツラの高い岩地の砦という地形で彼らをかきまい、養われるのではないかと考えられます。モアブに対するイザヤの預言が 15-16 章にあります。そこでモアブを逃れている者たちに、「宿らせなさい」と命じている神のことがあります。「あなたの中にモアブ

の散らされた者を宿らせ、荒らす者から逃れる者の隠れ家となれ。(16:4)」モアブに対する預言なのですが、よく読むと、16 章 1 節には、「セラから荒野を経て」とあり、具体的にはモアブにいた人々がセラ、つまりエドムに逃れてその人たちが、メシアに救われている様子が描かれています。セラにあるボツラが、隠れ家となれと教えているのです。

ダニエルがこの期間について、預言を受けていました。そこでの目的を、主の使いがはっきりと語っていました。「12:7 それは、一時と二時と半時である。聖なる民の力を打ち砕くことが終わるとき、これらすべてのことが成就する。」聖なる民の力が砕かれるとあります。この大きな試練の中で、彼らが自分たちの持っている力が砕かれます。今まで、迫害を受けて自分たちの手で救い出そうとするその力が砕かれるのです。ちょうどヤコブが、自分の手で神の祝福を得ようとする人生を歩みましたが、ついに、御使いと格闘して、太ももの関節を外されて、泣いて祝福を願い、祝福されたようにです。その力を打ち砕かれて、天から来られるメシアを求めようになるのです。

2A 川を飲み干す口 15-16

1B 諸国の軍隊 15

¹⁵すると蛇はその口から、女のうしろへ水を川のように吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

この水、大水は、ダニエル書 9 章 26 節などを見ると、軍隊が押し寄せる姿を形容する時に使います。「その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。」黙示録 16 章を見ますと、世界からの軍隊がハルマゲドンに集まることが預言されています。「16:16 こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。」そして、ハルマゲドンに集められた諸軍隊は、エルサレムを攻め入り、その半分を奪っていきます。「ゼカ 14:2 わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」そして、自分たちの軍隊を、今度は、ボツラにいる残りの民に矛先を向けるのです。エレミヤが預言しました、「49:14 私は主からの知らせを聞いた。『使者が国々に送られた。「集まって、エドムに攻め入れ。戦いに向けて立ち上がれ。』」」

2B 地形の助け 16

¹⁶しかし、地は女を助け、その口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

ここセラと呼ばれるエドムの地、そしてボツラの地形が、イスラエルを助けることになります。ダニエル書 11 章 41 節に、こんな預言があります。「彼は美しい国に攻め入り、多くの者が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアンモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。」先ほど話しましたように、反キリスト率いる諸国の軍隊は、まずエルサレムを攻めます。町の半分を攻め取ります。ここにあるように「美しい国」に攻め入るのです。それから、ヨルダン川を越えて向こう側に行くので

す。北からアンモン、モアブ、そしてエドムです。けれども、いずれも彼の手から逃げると教えているのです。これが、ここに書いている、女が地形によって助けられるということです。洪水による川は軍隊を表していますが(ダニエル 11:40 参照)、その地形が彼らから守るのです。

今のペトラに行きますと、その入り口がシークと呼ばれるもので、非常に狭い峡谷になっています。場所によっては幅 3 尺もありません。それが 1.2 キロも続き、うねった通路になっています。ですから、車もそこを通ることはできず、徒歩以外の移動手段は、らくだによるものしかありません。ですから、ここに軍隊が押し寄せようとも戦車も装甲車も入ることができないということです。そこを通り過ぎると、行き着く先がエル・ハズネ、あるいは宝物殿と呼ばれる遺跡が出て来て、辺り一帯が岩で囲まれた広い空間が出てくるのです。

このようにして、女は助けられます。黙示録では、ここまでの預言であります。イスラエルについては他のところに、このようにして集められてどのようなことが起こるかの預言があります。イスラエルは全体として守られますが、個々のイスラエル人は滅びを免れない者たちがいます。主は、荒野の中で反逆者をえり分けることを語られています。「エゼ 20:37-38 わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたを契約のくびきの下に連れて行き、38 あなたがたの中から、わたしに背く反逆者をより分ける。わたしは彼らをその寄留している地から導き出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。そのときあなたがたは、わたしが【主】であることを知る。」

そして、残りの民は、その力が打ち砕かれて、真に神に救いを求めるようになります。「レビ 26:40-42 彼らは、自分たちの咎と先祖の咎を、つまり、わたしの信頼を裏切って、わたしに逆らって歩んだことを告白するが、41 このわたしが彼らに逆らって歩み、彼らを敵の国へ送り込むのである。もしそのとき、彼らの無割礼の心がへりくだるなら、そのとき自分たちの咎の償いをするようになる。42 わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こす。またイサクとのわたしの契約を、さらにはアブラハムとのわたしの契約をも思い起こす。わたしはその地を思い起こす。」

この時の苦難は、ユダヤ人がなんと人口の三分の一に減らされるという過酷なものです。けれども、その残された三分の一が主に立ち返ります。「ゼカ 13:8-9 全地はこうなる——【主】のことば——。その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。9 わたしはその三分の一を火の中に入れ、銀を錬るように彼らを錬り、金を試すように彼らを試す。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『【主】は私の神』と言う。」全地と言っていますから、世界におけるユダヤ人のことでありますが、ボツラやその周辺でも、かなりの死者が出るのでしよう。

このように、ボツラで窮地に立たせられているユダヤ人たちに対して、そういった残りの民に対して主が救いに来られます。集まって来る軍隊に対して、イエス様はパランの山、シナイ半島の辺

りからボツラに向かってやって来られます。「ハバ 3:3 神はテマンから、聖なる方はパランの山から来られる。セラその威光は天をおおい、その賛美は地に満ちている。」そして、ボツラではそれらの軍隊がことごとく殺され、その戦いは再びエルサレムに戻ってきます。イザヤが預言しました。「63:1-4 「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」2 「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」3 「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をともしる者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。4 復讐の日がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。」

そのようにして戻って来られるイエス様を見て、自分たちの咎のためにこの方は突き刺されたのだと気づき、告白する預言が、私たちがよく知っているイザヤ書 53 章の預言です。53 章は、52 章の続きで読むと、実は再臨の主を見て、残りの民が、自分たちの代わりに主が打ち傷を受けたことを告白している場面であることが分かります。

そして、エルサレムにいる、生き残っている住民を救われるために戻って来られて、敵対する軍隊をことごとく滅ぼされ、オリーブ山に立たれ、天変地異が起こるといふ順番になっています。

3A 女の子孫に対する戦い 17-18

イエス様が再臨されるところまで見ましたが、今晚の学びのところでは、まだそこまでは行っていません。患難期の七年間の半ばに、竜がイスラエルを全滅できないことを知って、大患難の時にいきり立って他にやることがあります。

1B イエスを証しする者たち 17

¹⁷すると竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。

「女の子孫の残りの者」とはだれか？ということではありますが、これは、イスラエルが生み出した男の子、つまりイエス・キリストを信じた者たちです。だから、ユダヤ人だけでなく、むしろ多くが異邦人です。血縁関係ではなく、信仰によって、アブラハムの子孫とされた者たちです。この人たちが、これまでも見てきたように、患難の時期に入った後でも、イスラエル人の 14 万 4 千人の神のしもべの働きなどによって救われていった人々です。彼らが、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っています。そういった者たちに戦いを挑むということです。そのことが、次の 13 章に出てきます。彼らが、獣の刻印を押されることを拒み、また獣の像を拝まないの、殺されたり、また売り買いができなくなります。

2B 海辺の砂の上に立つ竜 18

¹⁸そして、竜は海辺の砂の上に立った。

地上にいる竜が、海辺の砂の上に立ちます。これは、海にいる獣を呼び起こすためです。13章1節に、「海から一頭の獣が上って来るのを見た」とあります。海の底は陰府の世界でもあります。黙示録17章には、国々の姿でもあります。ダニエル書7章に出てくる、海から出てきた獣たちと同じです。これは次回、じっくりと見ていきます。

こうしてイスラエルが、隠れ場に隠れて、そこでへりくだり、悔い改めて、メシアを求めることを見ていきました。主は真実な方で、私たちが困難に陥っても、必ず逃れの道を備えてくださいます。そして、そのように弱められている時にこそキリストの恵みが現れ、そこで力を現してください。イスラエルが終わりの日に通る出来事は、今、御霊によって私たちは日々、信仰の鍛錬として与えられるのです。主の御翼の下に隠れ、悪魔の攻撃から守られ、その中でへりくだり、弱さの中で主の恵みを知るのです。